大きな目標があればこそ

困難を乗り越えてこそ、本当の一体感

先日の例会の時、諸君の年間目標を聞かせてもらって、少しばかり、私も力が湧いてきました。やはり、思いが大きくないと、エネルギーがふつふつと湧き上がってこないように思います。

富士山に登るのと、近くの低い山に登るのとでは、まず何よりも、すべての〝構え方〟が異なります。近くの低い山に登るのであれば、大した準備も必要ないし、それほどの覚悟も求められません。そこそこの〝構え方〟でいいのです。ところが、富士山に登るのだと決めると、自分の心の中に緊張感が湧き上がります。明日から少し体力を鍛えよう。装備も完全にしなければならない。計画もしっかりと立てよう。仲間との連携も密にしよう。お金もいるぞ。よほどの〝構え方〟がなければなりません。

諸君の年間の目標は、みんなで富士山に登ろうではないかというほどの大計画です。全員に、よほどの〝構え〟がなければ、山頂に立つことはできません。逆に言えば、もし頂上に立つことができれば、諸君の間に、素晴らしい達成感と同志意識が生まれてくることと信じています。その意味からも、私は、諸君の大計画に、心から賛意を表すると共に、目標の実現することを心から祈ります。

「やりたいことをやりたいように」ではだめ

『夢甲斐塾』は、このところ、いささか思いが小さくなってしまっていると思っています。「みんなが、自分のやりたいことを、やりたい仲間達とやればいい」。そんな姿で推移してきたように思います。本当は、〝自修自得の精神〟で、「私達は、自らの力で何としてでも道を切り開いて見せます」といった果敢な姿勢を求めていましたが、それが、いつの間にか、「やりたいことをやりたいようにやる」といった方向になっていました。

それでは、みんなで達成感を味わうことができません。仲間内の親しみは増えても、それ以上の喜びや感動は生まれてこないのです。本当の同志意識は、高い目標に向かって、大きな努力をした時しか生まれてこないのです。

『夢甲斐塾』は、二十一世紀山梨の発展をもたらす活動の先頭に立つことを宣言しています。それが、〝出る杭〟の意味です。私達の学び、そして活動は、「彼らのやることが成就していけば、この山梨は良くなる」と、県民に目を見張らせるほどのインパクトがなければならないのです。諸君の大きな目標を実現するためには、入念な準備、周到な仕掛け、そして何よりも、先輩諸氏を大きく巻き込まなければなりません。それこそが、『夢甲斐塾』を生まれ変わらせることになるでしょう。期待します。

『夢甲斐塾』塾長　上甲　晃